

令和 2 年 度

伊勢市財政健全化審査意見書
伊勢市経営健全化審査意見書

伊 勢 市 監 査 委 員

3 監 第 132 号
令和3年8月18日

伊勢市長 鈴木 健一 様

伊勢市監査委員 畑 芳 嗣
伊勢市監査委員 中 井 豊
伊勢市監査委員 辻 孝 記

令和2年度 伊勢市財政健全化審査意見及び 伊勢市経営健全化審査意見の提出について

地方公共団体の財政の健全化に関する法律第3条第1項及び第22条第1項の規定により
審査に付された健全化判断比率及び資金不足比率並びにその算定の基礎となる事項を記載し
た書類について、伊勢市監査基準に準拠して審査を行った結果、次のとおり意見を提出する。

令和2年度 伊勢市財政健全化審査意見

1 審査の対象

実質赤字比率、連結実質赤字比率、実質公債費比率及び将来負担比率並びにその算定の基礎となる事項を記載した書類

2 審査の期間

令和3年7月26日～令和3年8月18日

3 審査の着眼点

健全化判断比率が関係法令に基づき算定されているか、その算定の基礎となる事項を記載した書類が適正に作成されているかを着眼点として審査を行った。

4 審査の実施内容

審査対象について、決算書及び関係書類と照合したほか、担当部署から説明を聴取した。また、決算審査の結果も参考として審査を行った。

5 審査の結果

(1) 総合意見

上記のとおり審査した限りにおいて、審査に付された健全化判断比率は関係法令に基づき算定され、また、その算定の基礎となる事項を記載した書類は適正に作成されていることを認めた。

健全化判断比率	平成30年度	令和元年度	令和2年度	早期健全化基準
① 実質赤字比率	— %	— %	— %	11.78 %
② 連結実質赤字比率	— %	— %	— %	16.78 %
③ 実質公債費比率	3.8 %	3.9 %	4.1 %	25.0 %
④ 将来負担比率	— %	— %	— %	350.0 %

(2) 健全化判断比率について

① 実質赤字比率について

一般会計等の実質収支において実質赤字額が発生しておらず、実質赤字比率は算定されない。

② 連結実質赤字比率について

全会計において実質赤字額または資金不足額が生じていないことから、連結実質赤字比率は算定されない。

③ 実質公債費比率について

実質公債費比率は4.1%で、前年度より0.2ポイント上昇したが、早期健全化基準の25.0%を下回っている。

④ 将来負担比率について

充当可能な財源額が将来負担額を上回っており、将来負担比率は算定されない。

(3) 個別意見及び是正改善を要する事項

健全化判断比率の4指標のうち実質公債費率は早期健全化基準を下回っており、また、他の3指標はいずれも比率が算定されないことから、特に指摘する事項はない。

※一般会計等とは、一般会計、住宅新築資金等貸付事業特別会計、土地取得特別会計である。

令和2年度 伊勢市病院事業会計経営健全化審査意見

1 審査の対象

資金不足比率及びその算定の基礎となる事項を記載した書類

2 審査の期間

令和3年7月26日～令和3年8月18日

3 審査の着眼点

資金不足比率が関係法令に基づき算定されているか、その算定の基礎となる事項を記載した書類が適正に作成されているかを着眼点として審査を行った。

4 審査の実施内容

審査対象について、決算書及び関係書類と照合したほか、担当部署から説明を聴取した。また、決算審査の結果も参考として審査を行った。

5 審査の結果

(1) 総合意見

上記のとおり審査した限りにおいて、審査に付された資金不足比率は関係法令に基づき算定され、また、その算定の基礎となる事項を記載した書類は適正に作成されていることを認めた。

	平成30年度	令和元年度	令和2年度	経営健全化基準
資金不足比率	— %	— %	— %	20.0 %

(2) 資金不足比率について

流動資産額17億9,377万2千円が、流動負債額17億3,230万9千円から建設改良費の財源に充てた企業債に係る1年以内の償還額7億895万5千円を控除した10億2,335万4千円を上回っており、資金不足比率は算定されない。

なお、短期的な支払能力を表す流動比率は103.5%であった。

(3) 個別意見及び是正改善を要する事項

資金不足比率は算定されず、特に指摘する事項はない。

令和2年度 伊勢市水道事業会計経営健全化審査意見

1 審査の対象

資金不足比率及びその算定の基礎となる事項を記載した書類

2 審査の期間

令和3年7月26日～令和3年8月18日

3 審査の着眼点

資金不足比率が関係法令に基づき算定されているか、その算定の基礎となる事項を記載した書類が適正に作成されているかを着眼点として審査を行った。

4 審査の実施内容

審査対象について、決算書及び関係書類と照合したほか、担当部署から説明を聴取した。また、決算審査の結果も参考として審査を行った。

5 審査の結果

(1) 総合意見

上記のとおり審査した限りにおいて、審査に付された資金不足比率は関係法令に基づき算定され、また、その算定の基礎となる事項を記載した書類は適正に作成されていることを認めた。

	平成30年度	令和元年度	令和2年度	経営健全化基準
資金不足比率	— %	— %	— %	20.0 %

(2) 資金不足比率について

流動資産額25億6,084万8千円から翌年度繰越額に係る財源充当額164万8千円を控除した25億5,920万円が、流動負債額7億5,216万6千円から建設改良費の財源に充てた企業債に係る1年以内の償還額3億8,728万6千円を控除した3億6,488万円を上回っており、資金不足比率は算定されない。

なお、短期的な支払能力を表す流動比率は340.5%であった。

(3) 個別意見及び是正改善を要する事項

資金不足比率は算定されず、特に指摘する事項はない。

令和2年度 伊勢市下水道事業会計経営健全化審査意見

1 審査の対象

資金不足比率及びその算定の基礎となる事項を記載した書類

2 審査の期間

令和3年7月26日～令和3年8月18日

3 審査の着眼点

資金不足比率が関係法令に基づき算定されているか、その算定の基礎となる事項を記載した書類が適正に作成されているかを着眼点として審査を行った。

4 審査の実施内容

審査対象について、決算書及び関係書類と照合したほか、担当部署から説明を聴取した。また、決算審査の結果も参考として審査を行った。

5 審査の結果

(1) 総合意見

上記のとおり審査した限りにおいて、審査に付された資金不足比率は関係法令に基づき算定され、また、その算定の基礎となる事項を記載した書類は適正に作成されていることを認めた。

	平成30年度	令和元年度	令和2年度	経営健全化基準
資金不足比率	— %	— %	— %	20.0 %

(2) 資金不足比率について

流動資産額19億1,400万2千円から翌年度繰越額に係る財源充当額745万1千円を控除した19億655万1千円が、流動負債額24億3,750万1千円から建設改良費の財源に充てた企業債に係る1年以内の償還額16億7,792万6千円を控除した7億5,957万5千円を上回っており、資金不足比率は算定されない。

なお、短期的な支払能力を表す流動比率は78.5%であった。

(3) 個別意見及び是正改善を要する事項

資金不足比率は算定されず、特に指摘する事項はない。

流動比率は100%を下回っているが、一般会計からの繰入金等が予想され、また整備の進捗に伴い使用料収入の増加が見込まれることから、支払能力に不足はないと考えられる。